



2016年4月入職

わだつぐみ
和田継海

燃えるような情熱で、真正面から物事に取り組む

先輩たちの背中、自分の理想

医療の道に進んだのは、高校3年生のときに国境なき医師団の方たちの出張講演を聞き、「カッコいい」と感じたことがきっかけです。それまでは進路に悩んでいたのですが、大勢の命を救う医療の世界に憧れを抱きました。このエピソードにも表れているように、私の行動は、自分が素直にカッコいいと思えたもの、憧れたものに基づいています。思いやりエキスパートに立候補したのも、認定されている先輩たちの仕事ぶりに刺激を受け、カッコいいと憧れたからです。どんな状況にも動じることなく堂々とし、患者さまとの関係を構築するのも上手い。新人のころの私からはとても遠い、全く敵わない存在でしたが「いつか追いつき、追い越したい」と思っていました。

思いやりエキスパートの候補に選ばれたとき、理想の自分に近づく第一歩を踏み出したことに嬉しさを感じたのを覚えています。私の理想は、チーム医療の実現です。透析は医療スタッフ一人ひとりが技術と知識を備えた主役であり、その技術と知識だけならどこまででも探求できます。以前の私は個人のスキルアップを追求し、まわりのスタッフと自分をその視点で比べていました。しかし、異動によって自分しか臨床工学技士がいない状況に置かれたとき、1人では何もできないことに気がきました。それからは、自分自身だけに向けていた目をチームへと向けるようになりました。



謙虚さと情熱の伴った行動を



チーム医療の実現においては、謙虚さが大切です。患者さまに、より良いサービスを提供したい、みんなが気持ちよく働ける職場環境を作りたいという思いは善仁会グループの全スタッフに共通しており、決して自分だけの感情ではありません。

チームのクオリティを高める上で私が果たすべき役割は、情熱を持って全体のテンションを高めていくことです。以前読んだ本に、こんな

ことが書かれていました。「能力があっても意欲に乏しければ良い結果は得られず、逆に能力はほどほどでも燃えるような情熱で努力すれば、能力に恵まれた人よりも良い結果が得られる」その通りだと思いました。現在、通常業務と並行して機械のマニュアル作成に取り組んでいますが、「こうしたらもっと見やすくなる」「こうしたらもっと安全に透析を行える」などの改善に余念がありません。初めての経験であっても、真正面から辛抱強くぶつかっていれば、課題解決に向けて前進できます。これからは謙虚さと情熱を持ってアクションを起こしていきたいです。

自分に満足することなく
研鑽し続け、お客さまの
ニーズに合わせた思いやりを
大切にします。

和田継海